

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者 80代 女性

利用期間 : 令和4年9月よりしおん入所

病名 : 腰部脊柱管狭窄症、高血圧症、うつ病、人工関節

経過 : R4年6月下旬より体調不良から1人で離床が困難となり、健育会病院入院後、A病院整形外科へ転院しL3-5の開窓術施行となる。退院後は主に長女が自宅にて介助を行っていたが、介護することが難しくなりリハビリ目的もあったことから令和4年9月にしおんに入所される。

内 容

入所当初から、幻聴、幻視といったせん妄、昼夜の独語があった。夜間はせん妄からの、不眠、大きい声での独語、環境の変化から家族を探しベッドから転落することもあった。

ご家族に会えない寂しさからか昼間はぼんやり過ごし、夜は孫の名前を呼び探すという行為が続いていた為。ご家族への状況報告は行っていたが仕事の都合とコロナ禍が重なり面会を調整する事が出来なかった為、少しずつご本人とご家族から聞き取りを行い、病気になる前は家事をや子育てを一生懸命している事が分かった。

家事の話をするご利用者の様子は普段より嬉しそうであった為、自宅での生活を思い出せるようテーブル拭きから初めて頂いた。テーブル拭きが慣れてきたころ、洗濯物たたみも役割に追加した。

最初はうまくいかなかったが徐々に1枚から2枚、2枚から5枚・10枚と集中して行えるようになり「もっと畳めるよ」「もっと持ってください」と、充実した様子でスタッフへ声を掛けられるようになった。タオル畳みの次は、息子さんが子供だった頃に一緒に行っていたコップ拭きやテーブル拭きも他のご利用者で行うようになり、この頃より他のご利用者達と会話する事も増え、最近では他者との交流が増えた事で笑顔で過ごされる事が多くなり、日中の無気力状態や夜間せん妄も殆ど見られなくなった。

現在でもご家族の面会は多くはない状態が続いているが、そのような状況でもご本人がしっかり生活の役割を持ち、ご自身のコミュニティを作りながらキラキラした1日を送れるように支援していきたい。